

令和7年度 樫原市青少年問題協議会 会議録

日 時：令和7年7月8日（火）午後2時00分

場 所：樫原市中央公民館3階 講堂

出席委員：14名（欠席委員1名）

事務局：栗原教育委員会事務局長、広瀬教育委員会事務局副局長、宮田人権・地域教育課長兼青少年センター長、黒田人権・地域教育課長補佐、山本統括調整員兼人権・地域連携係長、西田青少年センター指導員、松村青少年センター指導員、土谷青少年センター指導員

傍 聴：なし

議 事：議題1 「樫原市青少年健全育成の活動方針」（更新案）について
議題2 取組紹介、情報意見交換

会 議 録

- 資料確認 —
- 開会挨拶 —
- 委員紹介 —
- 事務局紹介 —

【議題1】

議長（石飛会長）

石飛でございます。委員各位には議事進行にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、議題①に入らせていただきます。

「樫原市青少年健全育成の活動方針（更新案）」について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局

では、事務局よりご説明いたします。

本日、机上に置かせていただきました樫原市青少年健全育成の活動方針（更新案）をご覧ください。令和7年1月の当協議会にて提案させていただいた際のご意見を参考に、本日、青字にて提案させていただきます。まず、Ⅰ．基本方針につきましては、新たにオンラインカジノを報道等によく聞くようになったため、記載いたしました。続きまして、Ⅱ．実施施策です。前回の協議会では、（４）の悩み相談等における連携と対応の充実については、しっかりと書き込まれているものの、そこに至るまでの（２）青少年の自己形成及び社会参加の記述が薄いのでは、とのご意見をいただきました。体験活動により主体的に行動し、喜びや達成感を得ることができるよう推進する旨記載いたしました。（３）につ

きましては、学校教育、家庭教育、地域教育を三位一体として、協働して教育の実現を図る旨記載しました。(4)につきましては、ひきこもりの前に不登校があるということで追記しました。最後に4ページのⅣ. 関係行政機関及び関係団体ですが、樫原市及び樫原市教育委員会を削除しました。また、樫原高市薬物乱用防止教育推進協議会が新たに発足され、先方様からも許可をいただき、現在の活動方針から追記しております。また、《関係する機関・団体》(例)、《関係する青少年育成団体》(例)につきましては、Ⅱ. 実施施策の4項目の中で重複して盛り込まれているものもあり、下段Ⅳ. 関係行政機関及び関係団体等にまとめる等、事前にご意見賜った分につきましては、緑字にて提示させていただいております。さらに修正案がございます。2ページ4行目「◆行政、学校、関係団体期間との連携強化及び情報共有を図り、青少年の犯罪や非行防止に努めます。」とありますが、「連携」が「係」の字になっています。「携帯」の「携」の字に改めまして修正案とさせていただきます。以上、ご審議の程よろしくお願いいいたします。

議長（石飛会長）

ただいま、事務局より説明がありましたが、これについて何か質問等ございませんか。

山本委員

《関連する市の事業》の次に(例)と記載されているが、(例)の文字は表記しなくてもよいのではないか。

議長（石飛会長）

事務局いかがですか。

事務局

(例)の字は必要ないと思います。全部の事業を記載しているのではなく、一例の意味です。(例)を表記はずし、《関連する市の主な事業》として変更修正を提案いたします。

議長（石飛会長）

《関連する市の主な事業》とすることにより一例という意味よりくっきりと表せます。(1)から(4)の変更修正の提案を受けようと思います。他には質問、意義はないようですので、修正箇所を事務局で修正した上で樫原市青少年問題協議会設置条例第2条第2項に基づいて、市長に報告の上纏めさせていただきます。結果については改めて完成版を送付させていただきますのでご確認お願いいいたします。

事務局

今、取り纏めていただきました案につきましては、次回開催する教育委員会議に報告した後、市長に報告させていただきます

議長（石飛会長）

議題1が終わりました。議題2、取組の紹介、情報意見交換に移らせていただきます。

委員の皆様が日頃行われている業務や取組の内容、青少年への関わり等、取組の紹介や、情報、意見があればお願いいいたします。

松村委員

檀原市保護司会は「社会を明るくする運動」に毎年取り組んでいます。保護司主催で全国的な事業で、檀原市では、市長が実行委員長を務められ、コロナ前は協力団体と共に大和八木駅北側広場において朝7時から通勤時間帯にティッシュ配布等、啓発活動を行っていました。檀原警察署長にも挨拶で来ていただいていた。コロナ下で一旦なくなりましたが、今年、福祉総務課から別の活動の検討を助言いただき、来年度はミグランスに場所を借りてPRを兼ねた活動を考えており、運動を大きくすることを検討しています。

議長（石飛会長）

「社会を明るくする運動」は、啓発活動は現在ストップされているのでしょうか。

松村委員

現在は小中学校と協力して作文コンテストの取組みを行っています。子どもから見て社会をよくするためにどんなことをしたらよいかをテーマに募集し、市や保護司で選定後、県へ応募、全国に行くシステムです。

議長（石飛会長）

保護司会から小中学校と連携しさらなる活動に繋げていく取組を報告いただきました。普段の取組内容、取組状況の中で気になる点等ありましたら発表をお願いします。

吉田(徳)委員

「社会を明るくする運動」の取組みで、作文の締め切りが7月末ぐらいで、書く時間が無く、締め切りを8月にできないか保護司の先生と相談している。夏休み期間を活用すれば子どもたちに余裕が生まれ、良いものができると考えている。国の締め切りが4月ということですが何とかありませんか。

議長（石飛会長）

国の締め切り期限等、枠組みの中で工夫されているという話です。他にありますか。

西村委員

中学校長会です。本校では「社会をよくする運動」は2年生の国語科で取組が定着化してきており、考えさせる事が出来ています。その他の取組みとして7月にスマホの使い方をNTTのサポーターさんから指導を受ける、新入生は保護者と一緒に体験授業で元警察官のスクールサポーターさんの講演、犯罪教室等や1学期にいじめアンケート、ヤングケアラーアンケートを実施し、早期発見に繋げています。地域の夏祭りの巡視、学校内では毎月、管理職、学年主任、教務主任と生徒指導対策会議を行い情報共有し、対策に繋がっています。

議長（石飛会長）

学校関係は講演会、アンケート等いろいろな角度から取組みをいただいているということです。

末次委員

放課後の児童の過ごし方、居場所について、塾に通っている子、保護者の方が家にいらっしやらない家庭と様々あるが先生方が把握できておるのか伺いたいと思います。

議長（石飛会長）

学校の先生への問いかけと思います。居場所の問題、健全育成の話になります。

浦西委員

小学校は今、ほとんど学童へ行っています。家に親御さんがいらっしゃる家庭の児童も友達との約束等で習い事とか練習とかも多いと思います。学校も夕方5時まで開放しているので、学童の子が遊んでいるから、家に帰った児童も来てというのは本校では盛んです。

議長（石飛会長）

中学校はいかがでしょうか。

西村委員

中学校は7、8割が部活動をしています。休日1日休み、平日も1日休みとっています。そこで活動しています。地域の野球教室や武道とか、そこに入っていない生徒については正直わからないところありますが、翌朝、元気に登校してくれている様子を見るということになると思います。

議長（石飛会長）

私のところの大学の学生も「放課後子ども教室」の学生ボランティアをさせていただいて、「放課後の居場所」「土曜日の活動の場所」などに若干、関わらせていただき、そういう場所へ来てくれる子どもはキャッチできますが、そこから漏れている子どもがいることが心配なところが課題になると思います。学校で毎朝「元気に来てくれる」という顔を見ながら、様子を見ながら進めていくというのが難しい課題として気に留めながら進めていなければならない。

松村委員

中学校の部活動は生徒指導に繋がり、賛成している。部活動の外部委託の話聞くが状況を説明いただきたい。

議長（石飛会長）

部活動の外部委託の件、事務局お願いします。

事務局

教職員の働き方改革もあり、部活動を地域クラブとして地域へ移行していこうということが進んでいます。令和8年には休日の教員の部活動は行わない事が決定しています。休日の3時間程度ですが地域の方に依頼する。学校の部活動ではなく地域クラブとして地域全体で支えていく方向で進めています。将来的には平日のクラブ活動も地域へ移行する予定です。学校の部活動を地域全体で支えるようになっていくと考えています。

議長（石飛会長）

部活動で行われてきた生徒指導を地域へうまくバトンタッチされなければならない。うまくバトンタッチされていけばよい効果も期待できる。いろいろ難しい課題解決に取り組まれています。他に気になる事があればお願いします。

根来委員

橿原警察で現在問題になっているのは大和八木駅北側の夜間少年の蛸集（いしゅう）があります。午後１０時頃、２０～３０人少年が集まっていると通報があります。５人前後のグループの集まりで、現在は「騒いでいる」と近隣からのクレームがあるということで大きな問題は発生していませんが、東京の東横、大阪のグリコ下の様にトクリュウ（匿名・流動型犯罪グループ）等、犯罪グループに取り込まれ、犯罪に巻き込まれる事が危惧されます。電車を利用して移動できるため、桜井、大和高田他、生駒から集まっている例も見受けられます。毎週末の警戒等、大きくならない様注視しています。

議長（石飛会長）

状況報告、情報共有により未然にトラブルを防ぐことが大事です。居場所の問題、危険な場所が見え始め怖さを感じる。上手な場所づくり、子どもたちにうまく手を差し伸べて繋ぎ止めることが必要です。関連して他にご意見ありますか。

隅岡委員

大和八木駅北側広場に関して、中学校の先生、生徒指導の先生方も非常に心配していたで、また現場に赴き指導していただいています。集まってくる子どもたちと話をする機会がありましたが、一対一でしゃべっていると幼く、柔らかい言葉を使って話ができ、一人では問題行動を心配する必要の無い子どもが、寂しさから家を出てしまい、SNS等で広域に繋がりを持ちます。信じられない世界ですが喧嘩を通して仲間意識をもって繋がりを広げている現状もあります。

教育研究所では不登校支援、いじめ対応、ヤングケアラーの問題に取組み、子どもの安全にも注視しています。長期休業期間中子どもたちの安全が非常に気になるころですが、長期休業明けに不登校が増え、いじめが起こりやすく、子どもの命が失われる可能性が高くなります。それを何とか防ぎたいと考え、学校の先生方に協力いただき義務教育課のアンケートを１学期に実施し、子どもたちが目に見えない問題を抱えていないか、先生方の見立て、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家の意見を取り入れる、児童生徒見守り会議を夏休み中に開催して防止対策を行っています。夏休み期間中にアンケート等で得たデータを基に、問題を抱えている子どもへのアプローチを検討し、早期対応に繋げている状況です。

議長（石飛会長）

夏休み、子どもたちが自由になり、不安定な部分を引き戻す取組を発表いただきました。最悪、子どもたちの命が失われない様、連携して取り組まれているという内容です。子どもの居場所、夏休み対策他、取組の発表をお願いします。

浦西委員

橿原市の小中学校では、昨年度からコミュニティ・スクールに取り組んでいます。各学校に地域の方々、自治会の方、保護者の方、ボランティアの方等に入っていて学校

運営協議会という形で学校だけでなく地域も含め、どのようにして子どもたちを支えていくかという話し合いの場、熟議の場を持たせていただくことがスタートしています。これまでは登下校、学校内外のもめ事、放課後とか何か起これば教員が対応してきたが、難しい状況になってきており、地域の方に行ってもらった方がよりよい環境ができるのではないかと、教員は子どもの学業に力を入れるという事が大事になってきている。他校との情報交換でも、これをきっかけにボランティア活動が活発になり、例えば、登下校の見守り等で子どもたちの安全が確保されたり、放課後にこんなことをしようかという話が出てきたり、形にはなっていないが子どもが喜ぶイベントの実施等をしていきたいといった話も出てきています。そういったことにより自治会、地域が繋がり、地域全体の安全向上になると意見をいただいています。ただ、高齢化により地域の担い手が少なくなってきたり、60歳超えても働かれている方も多く難しいところはあると思いますが、コミュニティ・スクールの話し合いを通じて、子どもの安全を守ることができることを進めていけたらと思っています。

議長（石飛会長）

前回（1月）にもコミュニティ・スクールの話がありました。地域の方に学校に加わっていただき、全体で子どもたちをサポートしていただくということにつながる、現実難しいハードルもありますが、地域全体での仕組みづくり、仕掛けが課題と思います。

森本委員

子どもたちは様々な悩みを抱えていると思います。大和八木駅北口に集まってくる子どもたちについて、一人ではできないがたくさん集まるとやってしまうということで、警察の方、先生方が対応されていると聞いていますが、子どもたちはカウンセリングの結果、どのような悩みを抱えていて、どのような問題が多いのでしょうか。

議長（石飛会長）

どちらが子どもたちに相談など対応されていますか。

隅岡委員

カウンセリングの内容自体は守秘義務が強く、お答えできるものはありませんが、相談項目として多いのは不登校、いじめの問題です。ヤングケアラーに関しては、「外で言ったらダメ」という認識があることや、家族の世話をする、手伝いをするというのは当たり前の事、自己有用感を高めるにあたっても、自分の中でも大事にしている子も多いです。

友人関係は、いじめまでではないですが、うまく友達と接する事が出来ない子も多くなっています。データはありませんがコロナ禍のマスク生活をしてきて相手の表情を読み取れない、集団行動をしていないことが影響しているのではないかと意見が多く聞かれます。ちょうど今の高校3年生が中学入学当初にコロナで集団活動が制限され、一緒にやる事の大切さを学べていない、経験値が少ないといった課題があるのではないかと現場の先生方は考えています。学校での活動は大切であるということを改めて認識しました。子どもたちの悩みは多岐にわたっており、家族の事、友人の事もありますが、（県）人権・

地域教育課が行っている「人権を確かめ合うアンケート」で子どもたちが一番望んでいることは「わかりやすい授業」ということを考えますと、子どもたちは授業内容がわからないからお客様状態になって、学校が楽しくないだとか、違うことに興味をもつといったことがあると思います。先生方は本当に一生懸命教材研究をしながら子どもたちが目を輝かせる様な授業ができないかと日々取り組んでいただいています。多岐に渡りますが学業と友人関係、そして家庭といったことが中心となります。

議長（石飛会長）

問題の例とポイントを上げていただきました。現場で先生方が教材研究を充実させる事と問題の対応があるも大変との話でした。コロナに関して大学生を見ているとどの学年で浴びたかによって違いがあります。全部をコロナが原因にはできないが、学校が大変な状態になり、子どもたちがやりたいことができなくなったという事が影を落として今まで引いているという事は頭に留め置かねばならないと気づかされます。

隅岡委員

コロナ禍で社会全体が何もできない状態の時、誰の責任でもないが、今の高校3年生たちは中学校卒業時に中学校生活で楽しみにしていた事が出来なかったことに一切不満を言っていない。修学旅行に行けなかったことなど、楽しいことができなかったのにその時できる行動を精一杯行ってくれたことを社会全体として認めてあげること、たとえ確かに力がついていない部分はあってもそれを取り戻せるように、みんなで応援する取組みが必要であり、卒業する時にはよく頑張りましたと送り出そうという学校現場の声がありました。

議長（石飛会長）

補足ありがとうございます。コロナ世代はこれができないという話ではなく、いろんな経験をしたかった時期にできなかったことを社会全体でどのようにサポートしていくかを考えていかねばならないとご指摘いただきました。

吉田(晴)委員

子ども青少年を取り巻く環境は昭和、平成、令和の時代の変化と共に変化しているという風に見てはいるのですが、子ども青少年が晒されている環境変化に目を背くことなく、敏感に察知することが大切だと改めて感じました。橿原市青少年健全育成活動方針、基本方針の実現に向け、人口減少、少子高齢化といわれているが、子どもたちを我々は丁寧に育てていく事を認識し、子どもたちの周辺環境をしっかり見つめて対応していく必要があると感じました。

議長（石飛会長）

時代の変化とともにいろいろな課題が出てくると思います。地域で子どもたちを育てていく事をこの協議会で今後ともしっかり進めていっていったらと思います。

さきほど言えなかったこと、先ほどの意見にプラスしてとか意見はありませんか。名簿順で、一言お願いします。

森本委員

皆さんの話の中で子どもたちの問題構造に対していろいろ話を伺って、それぞれの立場で共有していただいて、大変良い場だと思います。学校の先生方が勉強だけでなく、コミュニケーション能力であったり、上下関係、友達との横の関係など本当にいろんなことを教えていらっしゃいます。学校だけでは教えきれない事が多々あり、先生方の働き方改革もあるが、先生方の心の健康も大事だと思っています。コミュニティ・スクールは今後、子どもたちの学校以外の教育活動に大変重要であると思っています。子どもに対しての課題は学校側の目線、地域の課題、多少のずれがあったり同じところがあったりすると思うんです。ボランティア人材が少ないということも聞きます。教員志望の大学生や、子どもたちに教育することに興味がある学生が来てくれたら、放課後子ども教室として一つの居場所ができると思います。学校、地域が得意なことを分担し、協力していく事、コミュニティ・スクールで教員の皆さんと、いろんな立場の地域の方が、子どもたちの課題、地域の課題について話しあえるという事が重要。

子どもの居場所の問題もありました。子どもの安心する場所という意味では“人”もあるのではないかと。「この人といると安心する」、寂しい心を癒すのは人との出会い。紙芝居のおっちゃんの話聞くことで、いい出会いがまっすぐな方向へ導く。先生方、地域の方、有識者が意見交換できる場としてコミュニティ・スクールは今後重要な役割を担っていくと思う。

議長（石飛会長）

この協議会を含め、コミュニティ・スクールで人が集まり、意見交換をしたり、共有、すり合わせをしながら、より魅力的に皆が参加して子どもをサポートできる地域づくりに繋げる話です。

山本委員

民生児童委員協議会は樫原市に10地区あり、各地区2名、毎月1回、理事会を開いて活動をしています。大和八木駅北口の問題につきまして優先の範囲で情報共有していきたいと思っています。今は自然発生的な状況ですか、そこから何か組織化されているような状況か教えてください。

根来委員

完全に分析はできていませんが自然発生的なもの。原因としてはネグレクト、家庭の居場所、夜間に出歩いていても注意をされない、夜間の自分の家が安全・安心できる場所ではないということに問題があります。友達関係がそこでできる、仲間がそこでできて、そこが安心できる場所になってしまっているというのが現状ではないかと思っています。懸念される組織化には至っていないと思います。30名ほどが蟠集していますが特徴として、4～5名のグループが5～6個集まって最終的に大集団がなされている状況です。SNS等で情報交換して、そこにいたら何か面白いことがあるのではないかと集まっているのが正直なところです。

山本委員

中、高の割合はどのようなのでしょうか。

根来委員

中高生は11時くらいには帰っているのが現状です。奈良県の少年補導条例により11時以降は補導対象になる為、学校連絡、保護者連絡が鬱陶しいようで、その時間になると引きます。塾帰りのお子様もおりますので、10時、11時頃までちょっとそこにいて話を聞いているということもあります。全てが問題あるわけでは無いが、大集団になると気分が大きくなり、外れていかないかが問題として出てくると思います。

副議長（吉岡副会長）

経験なさっている方もいらっしゃると思いますが、遅く帰ってきてタクシー乗り場で待っていると非常に脅威を感じることがあります。少し大きなグループ同士が衝突しかける様な状況です。近くに交番がありますが反対側の為、どこまで把握されているのか、いささか市民として不安です。ちょっと言葉が憚れますが、以前は外国人の方がたくさんいらっしゃったのが今は子どもたちの集団になっている。何かの拍子に、実際、集団同士が口論から暴力沙汰直前まで行くのを何度か見えています。子どもたちの事もあります。市民に対しての脅威というのも有るので警察の方も少し考えていただけたらと思います。

議長（石飛会長）

一歩間違えたらということところにも目を向けつつ、居場所がなくて彷徨っている子どもたちへちゃんと手を差し伸べられるようにしていかなければなりません。では、松村委員お願いします。

松村委員

保護司会の組織の中にサポート支援があります。毎年11月末頃に非行や犯罪の防止を目的に学校と保護者の連携する会議を行っています。8月に内容の打ち合わせを行い、今まで行ってきた内容は、橿原警察署の生活安全課の課長のお話、人推協の方のお話等、今回はスマホのトラブル防止について大学の先生に来ていただいて会議の講演会をもちました。先生方、PTAの方にお世話になりますが11月の末、講演会の際にはよろしくお願いいたします。

議長（石飛会長）

いろいろな連携の取組を行っておられるという事、11月の予定で講演会を行われるという事です。よろしくお願いいたします。西川委員お願いします。

西川委員

3人のお子様がいらっしゃる親の立場から子どもの放課後の遊び場確保が難しい状況に困っています。友達と遊びたいが猛暑の為外で遊べない、友達の家も両親不在時は遊びに行けない事もあり、でも遊びたいのでコンビニ等喫茶ルームでお菓子を食べているみたいです。あそこは涼しいので子どもたちは工夫しているようだが、ただそれを聞くと心配になってくるし、お兄ちゃんに声をかけられるらしい。でも遊び場所がないので大和八木駅北口

の件を伺い、塾への通いも心配、ちゃんと迎えが必要と考えています。

議長（石飛会長）

本当に子どもたちの遊び場がないですよ、子どもたちは遊びたい、集まってしゃべりたい。そういう普通のところでサポートがしっかりできるようにならないといけない。放課後教室とか、いろいろ場所がありますが、普通に集まる場所が不足しています。だんだんそういう風になっている。末次委員何かありますでしょうか。

末次委員

子どもの居場所に関して、親が未熟、成長できていない為、家に居場所がない例がある。親が子どもとどう接しているのかわからず親子間の会話がなかったが、どこまで踏み込んでいいのかわからないのですが、親子とも成長して会話が出来ようになってきた家庭がある。

コミュニティ・スクールについて伺いたい。コミュニティ・スクールは学校主催ですか。

事務局

コミュニティ・スクールは人権・地域教育課が支援を行っています。各学校で学校運営協議会を開いていただき、学校運営、校長先生から話していただいたことを承認していただいたり、学校として、どのように地域の方に入っていただくかという事を決めていただくのが学校運営協議会です。地域の方に入っていただくことで、校長先生や教職員の移動があっても、地域の方が持続的にその学校が続いていくような学校づくりになっていったという風にさせていただいています。去年は4校のモデル校で実施させていただき、今年は残り17校の実施です。橿原市ではまだ始まったばかりで、先生も手探りの状況、これからどう発展していくのか我々行政も進め方を勉強しながら活動していくというのが我々の活動かなという状況です。

末次委員

コミュニティ・スクールの事がよくわからない。運営母体はどこになるのか。私が住んでいる地域では全然声も掛からない、どう入っていったらいいのか何かお手伝いできることがあれば、今やりたいがどこに行ったらいいのか。分かればすごく広がると思います

事務局

ボランティアの事でしょうか。コミュニティ・スクールは学校運営委員会の中でどんなボランティアが必要か、募集するかを検討しています。ボランティアの希望があれば各学校へ直接問い合わせいただくか人権・地域教育課へ問い合わせいただいても紹介できます。

末次委員

こちらからの発信のしようが分からない。どこに行ったらいいのかな。

副議長（吉岡副会長）

コミュニティ・スクールというのは全国的に始まった学校と地域の協働という形です。橿原市もやっとスタートしたばかりでこれからの活動です。地域と学校の協働とかコミ

ユニティ・スクール、子どもの居場所、公民館含めこれらの問題は社会教育委員会議の中では大命題になっています。各地域、各地区のいろんな取組ケースを奈良県含め各県の分科会に参加して見分し、各地域によって違うのでこれからの橿原市の取組みを検討しています。地域と学校、地域住民と学校のつながりから始めているのもう少し見てみたいと思います。

末次委員

子どもは地域と学校と家庭で育っていますので、何か関わることがあればということで聞かせていただきました。

事務局

まだ教育委員会の方で情報発信が十分できていなかったというのは非常に大きな問題と思っています。もっと情報発信ができるよう心掛けたいと思います。コミュニティ・スクールというのは学校の方針等承認するとか、いろいろな問題を熟議する場になります。実際のボランティアの内容は学校の校長先生が主体になっている地域学校協働本部でそれぞれの募集を行っているので、お住いの学校の校長先生にご相談いただければ、お力をお借りすることができます。ご協力お願いいたします。

議長（石飛会長）

コミュニティ・スクール開始にともない、ぜひ参加してみたいという声が上がりが喜ばしく、これから良い方向へ進んでいけると思います。いろいろ問題提起していただいたと思います。

浦西委員

小学校でもスマホの使い方、SNSの使い方をスマホ教室等で教えています。高学年になると問題も多く、注意しているが子どもたちは大人以上に害も含めてよく知っており、学校としては警告を発するという事も大事にしたいが、大人に対する信頼感を育成する場と思っている。それぞれの価値観の問題があり難しいが、トラブル等困ったときに「大人に相談できる」、「大人に相談していいんだ」という事を教えていく。それぞれの価値観がいろいろありますが学校としてはそれが大事だと思っています。

議長（石飛会長）

入口はスマホの使い方ですが最終的には子どもが困ったとき、悩んだ時にはちゃんと大人に相談できるようにしていく。学校はそれが大事な役割だというお話だったと思います。

西村委員

学校の経営中心は校長にあるが、コミュニティ・スクールでは学校運営に地域の方に参加いただき一緒に協働している。本校では今年「笑顔があふれ 幸せひろがる つながりの和を」をスローガンに活動をしている。学校運営の中で地域の方とコミュニティ・スクールと一緒に頑張りたいと思っています。大和八木駅広場の件、家庭とのつながりとか、学校と友達とのつながりとか大事に考えて活動していきたい。

議長（石飛会長）

ありがとうございます。全体の話がちょっとずつ重なり合い繋がっていくという事と思います。

副議長（吉岡副会長）

社会教育委員会議の中で見ている中で、大きな問題の1つが学校と地域の協働です。今、地域のコミュニティが壊れてしまって再編のしようがない。昔みたいなものが取り返されることは夢でしかなく、新しいものを作っていないといけない。地域の連携が取れていないところを補うのがコミュニティ・スクールです。学校と地域、それから家庭。家庭の中がかなり壊れている。子どもは親の目が届かないところで何か悪さをしたがるが、それは子どもが成長していくうえで非常に重要な過程でもある。ゆっくり地域と家庭と学校が見守って子どもたちがのびのび育つ形を作りたい。樫原市には地区公民館が11か所ありますが、公民館が地域の核にならなくてはならない。今、壊れてしまっているものをどのように修復できるか、全国の事例を検証し、樫原市にあてはめて検討していく。ここで出た話が全部リンクしており全部つながっている、青少年、お年寄りも含めて、皆でうまくつながっていくために話し合うことによりどうすればよいか方法が見えてくる。全国、地域ごとのやり方があるが、国の施策は地域性を無視したものが多い、地域に合った形を皆が知恵を出し合って作っていく、部活の問題でも国から出されたら地域は困惑している。その中でも知恵を出し合っていかなければならない。そういう事の仲立ちも私たちの仕事かなと思っています。

議長（石飛会長）

社会教育委員会議という地域側から見て、地域もそれぞれ問題を抱えている。地域ごとに、コミュニティごとに作っていかなければならないというお話です。続きまして杉野委員よろしくをお願いします。

杉野委員

一番大きな問題の児童虐待につきまして、子どもが減少しているにもかかわらず、児童虐待の通告件数、対応件数は増加をしています。いろいろ課題、問題はありますが、増えているのが悪いというのではなく通告を基に成り立っているので、通告の増加は些細な段階で地域の方、学校の方とかいろいろな方から早期通告がされ、早期対応ができています。忘れてはならない案件として、2年前に扱っていた案件のお子さんが亡くなる事故があり、その反省を踏まえて職員の増加し、警察との連携を強化し、対策強化に努めている。高田センター管内、人口の多い樫原市と当然通告件数が一番多いのですが、連携を取り業務を進めていきます。これから引き続き取り組みをお願いします。

議長（石飛会長）

活動方針に繋げて虐待対策として、通告という事ではちゃんと皆で見守り、なるべく芽が小さいうちからサポートの手を入れることができます、というお話だったと思います。それでは隅岡委員をお願いします。

隅岡委員

市教委の皆様と連携しながら進めています、警察署の方や、こども家庭相談センターの方とも連携しないと子どもたちを見ていくことはできないという状況があります。いじめに関しては、件数の多さは学校の先生方が子どもたちの状況を把握し、問題視し、取り組みをスタートさせている件数と捉えています。いじめに関して共通の定義により、本人が嫌だと思ったらいじめとなる為、法律に則った定義で取り組んでいます。しかし、保護者の中にはかなり心配されて、いじめた相手に対して過度な要求をされたり、学校に対して過度な対応を求められたりする件数も増加しています。子どもを心配する親の立場はちょっと高いところから子どもたちを見守ろうとすることから、今変化しています。難しいことですが、いじめは少なくしていきたいし、件数があってもちゃんと解決して子どもたちに人間関係をうまく作っていく力をつけていくことが重要です。現場の先生方は勉強以外にも人間関係の作り方であったり、ルールを守ることであったり、横のつながりと縦のつながりの重要性を教えていただくことなどについて、本当に多忙の中見守っていただいている状況です。私たち県といたしましても現場の先生方を支えていきたいと考えております。

議長（石飛会長）

いじめ対策も子どもたちに人間関係を作っていく力が大事だという事。辛い思いをしたという事をすぐ相談してもらえるような空気づくりが必要という話だったかと思います。

根末委員

我々普段感じていることは、警察は防波堤であると考えています。我々を乗り越えてしまうと犯罪が発生する。誰かが傷つくことも発生してしまうので可能な限り高い防波堤であれば、そこまで至らない波穏やかなところについては関係機関の皆様、また地域の皆様、またご家庭で育んでいただいたら、それで波穏やかな状態に戻していただけるのが一番いいと。ただ波が高くなった時には我々は期待と信頼を寄せていただいているそれに対してしっかりとお応えできる壁でありたいと感じております。大和八木駅の情報を提供させていただいたが、防波堤には司法の側（犯罪の側）と行政の側（犯罪にならない側）の2面があると考えている。人が集まる便利な場所は発展する為には必要な場所であるが、逆に人が集まり賑わいを味わう場所は東横、グリ下につながる悪い面を警察は想定してしまうこともあります。皆様のご意見、お知恵、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

議長（石飛会長）

どちらに転ぶかわからないところを皆が協力して子どもたちを支えていくということかと思います。若者たちが集まって賑わいを作り出していく可能性に転がるよう協力してよい方向に向かっていくことが大事だという話だったかと思います。

吉田(晴)委員

私は、大和八木駅北側について少し話させていただきます。違う観点からまちづくりや、まちの中のいろいろな形成を考えると根来委員の言われるとおりだと思います。大和八木駅は市の中心であり多くの方が利用され、人に集まっていただく目的で広場を作っている。とはいえ大切なのは雰囲気良く、居心地がいい広場が一番よい状態です。教育部門といろいろ打ち合わせし、物理的な空間をどういう風に形成していったらいいのかといった観点で研究していきたいと思っています。

議長（石飛会長）

ありがとうございます。うまく繋げてまとめていただきました。まちづくりの観点、賑わいづくりの観点で取り組んでいかれることと思います。

吉田(徳)委員

皆様の意見を聞いて、居場所が大事という話では学校は楽しい場所でなければならぬ。そのためにはわかりやすい授業が大切であることは、常々校長会でも話しているところです。隅岡委員の言われた人権アンケートの結果でも、6～7割の子どもが望んでいることがわかります。松村委員からご質問がありましたように、子どもたちが活躍できるよう部活動地域移行の実現に向けて工夫しているところです。2つ目に学校と家庭、地域の連携の話です。家庭、地域の協力なしで子どもは育たない、白樫地区では小学校の下校時間に買い物を行う取組みをしていただいています。誰かの顔が浮かんだら子どもは一線を越えないか、親の顔、先生の顔、地域のおっちゃん顔等、そういう関係をまず作れるようお願いしています。最後に3つ目、命に関してですが、根来委員とは始まる前に話をしていたんですが、最近では暴れるとか教師への暴力とかはあまりないが、リストカットを非常に心配しているということです。隅岡委員から心と体の話があったが、昔、ある知り合いから生徒が亡くなった際、アンケートをしっかりと分析していたら救えたのではないかという話を聞きました。その話を聞いてから校長会でアンケートにしっかりと取り組むよう言っています。

議長（石飛会長）

ありがとうございます。全体をうまく繋げていただきました。いろいろ今日は充実した議論をしていただけたと思います。時間が迫ってまいりましたので会議を終了させていただきます。事務局の方から何かございますか。

事務局

本日は活発な意見交換、様々なご意見、ありがとうございました。
また、活動方針につきまして、更新の審議をいただきありがとうございます。次年度より、関連する事業内容を関係する事業部署において作成し、協議会の資料とさせていただきます。関係部署と共有し、青少年の健全育成にむけて進めてまいります。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

また、会議録につきましては、後日、委員の皆様にお送りさせていただきますので、お目を通してくださいますようお願いいたします。また、次年度も7月初旬頃の開催を予定

しております。重ねまして、よろしくお願いいたします。以上でございます。

議長（石飛会長）

今後とも、よりよい議論ができますよう、皆様方のご協力をお願いいたします。では、事務局に進行を戻します。

宮田課長

石飛会長ありがとうございました。最後に、樫原市教育委員会事務局副局長 広瀬秀夫よりご挨拶申し上げます。

－ 閉会挨拶 －

事務局

本日は長時間にわたりましてご審議いただき、誠にありがとうございました。これを持ちまして会議を終了させていただきます。ありがとうございました。